

出題分析		
試験時間 90 分	配点 100 点	大問数 3 題
分量（昨年比較）〔減少 <input type="checkbox"/> 同程度 <input checked="" type="checkbox"/> 増加〕	難易度変化（昨年比較）〔易化 <input type="checkbox"/> 同程度 <input checked="" type="checkbox"/> 難化〕	
<b>【概評】</b> 今年度は「歴史総合」「世界史探究」から出題される新課程入試の初年度であったが、「歴史総合」を意識した内容は見られなかった。出題形式は例年通り、語句解答問題と2～5行程度の小論述問題からなる。出題範囲としては、時代・地域ともに幅広く、昨年度の傾向を引き継いでいる。		

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
1	中国における「封建」的支配	古代中国史が中心に問われた。問1、問2は語句記述で、漢字も特に難しくない。秦の政策について問われた問3は解答欄が5行もあり、すべて埋められるほどの内容を思いつけなかった受験生も多かっただろう。解答例では内政と外政に分けて、多くの教科書に記載のある事項をまんべんなく盛り込んだ。問4は郡国制の変化がテーマで、標準的な内容。問5は「華夷の区別」と迷った人もいるかもしれない。下線部で「周辺諸国の君主に王号を与え」という具体的なプロセスが述べられていることから、解答としては「冊封体制」がふさわしいと考えられる。なお、冊封体制のシステムが一般化するのには南北朝時代以後である。	標準
2	草創期から現代までのイスラーム史	問1の空欄穴埋めは易しい。問2も定番のテーマ。語句記述部分では、問8の「リヤド」が難しい。メッカなどの誤答が多かったのではないだろうか。問9の論述はエジプト＝イスラエル平和条約の内容について。この条約はしばしば「領土と平和の交換」と表現される。両国が平和のためにそれぞれどういった点で妥協したのか、平和と引き換えにされた領土とはどこなのかを2行以内で明快にまとめた。	標準

設問別講評			
3	ヨハネス 23 世の回勅	<p>リード文として、ローマ教皇ヨハネス 23 世が 1963 年に発表した回勅が用いられているが、解答にあたって読解する必要は特にはない。問 1、コンスタンツ公会議についての論述。教会大分裂の解消やフスへの異端宣告など、基本的な内容を書けばよい。問 2 の「ダーウィンの進化論が欧米社会に与えた影響」というテーマは少し難しく感じられたかもしれない。深く考えすぎず、キリスト教の世界観との矛盾や社会進化論を想起できればよかった。問 3、問 4 の語句記述は容易。問 5 は「勢力均衡」について問題文ですでに述べられているため、正統主義の説明をした上で指定語句から連想されるウィーン議定書の内容を書いていけばよいだろう。問 6 は他の核軍縮条約との混同に注意したい。</p>	標準

#### 合格のための学習法

幅広い時代・地域からの出題が続いているので、教科書をベースに古代から現代まで抜けない学習を心掛けたい。語句記述問題では中国史の漢字が出題される場合もあるので、しっかり自分の手で書けるように練習すること。小論述では定番テーマの出題が目立つ。過去問や問題集などを活用して基本的な知識を蓄え、指定字数（行数）以内にまとめる経験を積んでおきたい。また、2024 年度はルネサンス、2025 年度は進化論など、文化史と関連するテーマの論述問題も出題されている。一問一答式の暗記で片づけてしまいがちな文化史であるが、文化と社会の関わりを意識しながら教科書を読むと新たな発見があるだろう。